



学校だより

吉川小学校には、お宝がいっぱい！

吉川小学校の校歌を作曲した人を知っていますか？「鯖江音楽文化の父」と言われる棚池 慶助 氏です。棚池氏は、明治33年現在の川去町の農家に生まれました。つまり、吉川小学校を卒業した先輩ということです。

彼は14歳のとき、一挺のバイオリンに出会い、音の美しさと自由に感情を表現することのできるこの楽器にすっかり魅せられてしまいます。もっと勉強したいという気持ちを抑えることができず、父親の反対を押し切り18歳のとき上京しました。1日7時間もの練習で、弦を押さえる指の皮が破れ、血まみれになったり、こぶができたとしても努力を続け、バイオリン指導者としても第一人者となりました。



お宝その1 校歌の作曲者

終戦とともに、郷土文化の向上に力を入れたいと鯖江にもどり、「バイオリンに注いだ努力を、勉強や仕事につぎ込める人づくり」をモットーに、多くの弟子を育てました。努力という言葉が、彼ほど似合う音楽家はいないと言われています。

(「さばえ人物ものがたり」参考)



お宝その2 台座の短歌

右の短歌は、校門前に佇む二宮尊徳像の台座（左写真）に刻まれています。自然と共に力強く生きる吉川地区の人々の矜持であり、綿々と受け継がれてきた生き方そのものであろうと私は考えます。

自然と共にたくましく生きる子どもたちを育てることは、地域の願いであり、変化の激しい未来を主体的に生きる子を育てる本校の目標でもあります。

今後も、この学び舎で学ぶ476名の子どもたちが普段何気なく見過ごしているこうした宝ものの意味を学校だよりを通して伝

此の秋は 雨か嵐か知らねども
今日のつとめの 田草取るなり

えていきたいと考えています。それはとりもなおさず、母校となる吉川小学校、そして、ふるさと吉川を愛することにつながっていくと信じるからです。

※今後もこの学校だよりで、「吉川小のお宝」を発信しています！

令和独楽吟

たのしみは 家に帰ってゲームして
キャベツ太郎を 食べているとき

たのしみは 学校終わりサッカーで
きをひきしめて ボールけるとき

たのしみは 休み時間に友達と
笑顔いっぱい 遊んでいるとき

たのしみは 猫の名前を呼ぶとすぐ
かわいくミャーと 寄ってくるとき

たのしみは 夜寝る前にねころがり
大好きな本 読みふけるとき

6年生は、国語科の学習で短歌づくりに取り組みました。福井県出身の歌人「橘 曙覧」が日常生活の中に楽しみや喜びを見いだして、「たのしみは」で始まり「とき」で結ぶ短歌を詠んだことに形を借りて、一人一人がわくわくすることや楽しくなるときを探して短歌にしました。

コロナ禍の今だからこそ見えてくる当たり前の生活の尊さ、今できることの楽しみを、子どもたちはそれぞれに見いだすことができました。

厳しい暑さが続きます

2学期がスタートして2週間が過ぎようとしています。保護者の皆さまのご協力のおかげで、子どもたちの欠席は大変少なく、元気いっぱいに学校生活を送っています。教室は、エアコンや扇風機をフル回転させて学習を行っており、体調不良を訴える子も少なく、休校で遅れた学習内容を順調に取り戻しつつあります。

感染防止対策とともに、熱中症対策にも引き続き取り組んでまいります。気温だけでなく暑さ指数に気を配りながら、子どもたちの安全と健康を最優先に指導させていただきます。

9月も、まだまだ暑さが予想されます。どうかご家庭におかれましても、十分な睡眠と休養をとらせていただき、子どもたちが元気に登校できますようご配慮をお願いいたします。発熱や風邪症状がある場合は、無理をさせず休ませてください。(欠席扱いにはしません) また、お子さんやご家族の方に、新型コロナウイルス感染や濃厚接触が確認された場合は、速やかに学校までご連絡くださいますようお願いいたします。



8/28まで夏季スクールバスを運行します